

指定管理者評価シート

事業名	札幌芸術の森等運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	--------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館	所在地	【札幌芸術の森】 南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】 中央区宮の森4条1 2丁目
開設時期	【札幌芸術の森】 昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】 昭和56年6月	延床面積	【札幌芸術の森】 389,653.82㎡(敷地面積) 【札幌彫刻美術館】 本館374.10㎡、記念館437.07㎡
目的	<p>【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。</p>		
事業概要	<p>【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。</p>		
主要施設	<p>【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本館: ギャラリー、展示室1～5、研修室、屋外展示スペース 記念館: 展示室1～4、ロビー</p>		

2 指定管理者	
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
募集方法	<p>非公募</p> <p>非公募の場合、その理由：札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を活かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p> <p>彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p>
指定単位	<p>施設数：2施設</p> <p>複数施設を一括指定の場合、その理由：施設の設置目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費節減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括し管理している。</p>
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務
3 評価単位	<p>施設数：2施設</p> <p>複数施設を一括評価の場合、その理由：2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。</p>

II 令和4年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とするため、次の5つの基本方針を策定している。</p> <p>①札幌芸術の森の特性を活かした魅力ある多彩な事業の実施 ②芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり ③自然と調和した事業展開と場づくり ④人と人が出会い、つながる交流の場としての機能の充実 ⑤安全で利用しやすい施設づくり</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、次の4つの基本方針を策定している。</p> <p>①本郷新の顕彰及び関連情報の収集・保存・公開 ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信 ③利用者の拡大と次代の担い手の育成 ④市民に関かれ、立地環境を活かした施設運営</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。 受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、ホームページ上で施設の空き状況を確認できるようにした。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。</p>	<p>第4期指定管理期間において、札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>両施設とも、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善や事業展開を図っており、サービスの向上に努めている。また、野外ステージ動線やアートホール大練習室の照明灯具のLED化を行うなど、様々な節電等対策や環境に配慮した取組を行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

▼ 冷暖房について

夏場28℃、冬場24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。また、職員を対象にクールビズを促進した。

▼ 節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備の間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間の照明を必要最低限なレベルまで間引いたり、不在時の消灯を徹底する等、更なる節電に努めた。
- ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に自家発電を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電源の削減に努めた。
- ・野外ステージ観客動線上の照明灯具、貸室(アートホール大練習室)の照明灯具のLED化を進めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を控えるとともに、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

省エネについては照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に努めた。

暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【札幌芸術の森】

▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。

▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理課長を配置している。

▼ 芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員7人を配置している。

▼ 木工房においては職員の急な退職により臨時休館日を設ける等の対応が必要となったが、速やかに職員募集を行う他、運営体制の見直しを図ることで、影響を最小限に留めた。

▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

《4月・5月》

新採用研修

コンプライアンス研修

安全運転講習

《8月・9月》

管理職マネジメント研修

《10月》

コンプライアンス研修

《12月》

管理職マネジメント研修

《1月・2月》

情報セキュリティポリシー研修

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な人員配置を行った。業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。

また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員3人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた研修を計画的に行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行ったほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

《4月・5月》

新採用研修

コンプライアンス研修

《6月》

現場研修「生誕100年 藤川叢三展」展

普通応急手当講習

《8月・9月》

管理職マネジメント研修

《9月》

現場研修「建築家上遠野徹と本郷新の宮の森のアトリエ」展

《10月》

野外彫刻のメンテナンスを学ぶ

防火管理研修

自衛消防訓練

コンプライアンス研修

《11月》

インボイス実務対応セミナー

《12月》

現場研修「New Eyes 視線のはなし」展

《1月・2月》

情報セキュリティポリシー研修

《2月》

ウェブアクセシビリティ研修

情報セキュリティポリシー研修

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

▼ 財団内LANIによるグループウェアソフトを活用し、事業部内及び財団全体の職員間で情報共有を行った。

▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者(受付、警備、施設設備管理、清掃)と職員間での情報共有ツールとして、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。

▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定など、お客様対応に必要な情報の共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。各職員の資質の向上のため、機会をとらえて研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現任訓練も必要の都度実施した。美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応と事前の利用者への確認等を円滑に行うことができた。集客イベント等の情報共有を園全体にもれなく行うことができ経緯を残せるため、園全体での混雑状況の把握や広報に活かすことができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 財団内LANIによるグループウェアソフトを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

【札幌芸術の森】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、経費節減等が期待できる一部の業務については、複数年契約を締結した。

▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

▼札幌芸術の森運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月22日)	(1) 令和3年度管理運営業務の報告について (2) 令和4年度管理運営業務の経過報告について
第2回 (9月22日)	令和4年度管理運営業務の経過報告について
第3回 (12月22日)	(1) 令和4年度管理運営業務の経過報告について (2) 条例規則等の見直しに関する札幌市との調整事項について
第4回 (3月14日)	令和4年度管理運営業務の経過報告について
<協議会メンバー> 地域：芸術の森地区まちづくりセンター所長 利用者：施設利用者 有識者：放送局、コンベンションビューロー、大学教授、 MICE団体 ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア 札幌市：市民文化局文化部長 指定管理者：芸術の森事業部長	

▼政策推進連絡会の開催

開催日

令和5年1月31日 14時00分～16時00分

意見交換等の項目

- ・今年度の予算執行見込みと次年度予算について
- ・次年度の事業展開について
- ・各種協議事項

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたる項目について、様々な分野の方々からご意見をいただいた。令和4年度は「芸術の森開園40周年に向けた取り組み」など、委員の幅広い見地からの意見を募ることで、より良い運営方法について検討が進んだ。

所管部局と直接に協議、情報交換ができる機会を有意義に活用し、次年度の事業展開、収支状況、現在抱えている問題などを共有することができた。

▼本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 6月17日	・令和3年度事業報告 ・令和4年度事業計画
第2回 10月6日	・令和4年度事業経過報告(4～9月) ・令和5年度事業企画状況
第3回 3月10日	・令和4年度事業経過報告(10～2月) ・令和5年度主催事業 ・施設・管理・運営面での報告
<協議会メンバー> 利用者団体:札幌市立大倉山小学校PTA 利用者団体:札幌彫刻美術館友の会副会長 地元自治会:宮の森明和会会長 学識経験者:札幌市立三角山小学校校長 学識経験者:彫刻家 札幌市:市民文化局文化部文化振興課課長 指定管理者:彫刻美術館館長(芸術の森事業部彫刻美術館課長)	

▼政策推進連絡会の開催

開催日

令和5年1月19日 10時00分～11時30分

意見交換等の項目

- (1) 今年度の予算執行見込みと次年度予算について
- (2) 次年度の事業展開について
- (3) 第4回本郷新記念札幌彫刻賞の進捗確認と今後の流れについて-芸術の森野外美術館への設置に係る検討状況
 - ①設置の可否、②設置場所、③素材・大きさ・重量
 - ④設置にかかる予算
- (4) 今後の政策推進連絡会について

当施設の運営について、多岐にわたり様々なご意見をいただいた。意見交換を活発に行い、地域利用者や専門家の意見、評価を直接聞くことができた。いただいた意見を広報、事業企画に積極的に活かした。

所管部局と直接に協議、情報交換ができる機会を有意義に活用し、次年度の事業展開、収支状況、現在抱えている問題などを共有することができた。

<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。</p> <p>▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。</p>	<p>資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。</p>
<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ お客様からの要望・苦情があった場合には、文書や財団内LANによるグループウェアソフト等を活用し、担当課及び関連部署の職員間で速やかに情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。</p> <p>また、アンケートにて要望のあった事項について、対応なども含めホームページで閲覧できるように対応した。</p> <p>▼ 札幌芸術の森ホームページに寄せられる問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。</p> <p>▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。</p>	<p>来園者からの要望は真摯に受け止め、可能なものは迅速に改善するよう努めた。</p> <p>来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。</p>
<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理業務に関する諸規程 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画及び事業報告書 ・収支予算・決算に関する書類 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 <p>▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。</p> <p>▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。</p> <p>▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。</p>	<p>業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。</p> <p>施設運営の維持・改善のため、来園者にアンケート調査を実施し、寄せられたご意見については、速やかに検討し、可能な限り改善した。</p> <p>施設管理に関する市民からの要望・苦情については、誠実に対応し、札幌市と情報を共有した。</p>

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A B C D
		<p>【札幌芸術の森・本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専用相談窓口を設けている。</p> <p>▼ 木工場の管理運営にかかる法令・通知・公示と安全衛生の向上や労働災害防止を目的とする各工作機械のガイドラインについて、業界団体の定期刊行物の購読により情報収集に努めたほか、労働安全衛生法に準拠した木工場管理マニュアルを整備し、より一層安全な工房管理に努めている。</p> <p>▼ 労働災害・事故について、5件の労働災害が発生した。うち、1件は雪庇落とし作業中の転落事故による骨盤骨折の重大事故を含む。</p>	<p>36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。</p> <p>雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。</p> <p>また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ3)として認証を受けているほか、6年計画で策定した次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画、及び3年計画で策定した女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。</p> <p>衛生委員会や産業医の職場巡視により、労災防止に努めたのに加え、令和4年度は令和3年度に引き続き木工場の安全な運営のための環境整備を進めた。雪庇落とし作業中の単独事故を受け、複数作業体制の徹底など朝礼や定例ミーティングにて訓示を行い、安全教育の強化を図った。</p>

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

【札幌芸術の森】

▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる業務、電気・空調設備等の建物保守関係の業務、野外ステージや美術館に関わる管理業務等業務、合計45業務について第三者委託により実施した。

▼ 主な修繕について

- ①陶工房庇鉄柱脚部修繕
- ②野外美術館 散水栓交換
- ③美術館第2収蔵庫No.3吸収冷温水機補修
- ④アートホール前石畳補修

▼ 野外美術館の作品は、その設置環境ゆえ定期的な状態の確認、補修を行っている。

仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。

状況に応じた適切な修繕を実施することができた。

野外美術館の多くの作品が設置から約30年以上経過しているため、外観目視による日常点検では把握することができない内側の劣化も予想され、令和3年度に札幌市による調査が行われた。今後必要な対策のために、札幌市と共に保全方法の検討を進めている。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。

- ▼ 主に下記の修繕を行った。
- ・研修室窓錠、ドア修繕
 - ・本館排煙窓修繕
 - ・本館ファンコン温水流異常解消

仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。
状況に応じた適切な修繕を実施することができた。

▽ 防災

【札幌芸術の森】

- ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。
- ・第1回消防訓練(総合) 12月18日
 - ・第2回消防訓練(総合) 3月23日

職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。
- ・地震発生時を想定した消防訓練 10月21日

職員の防災への意識を高めることができた。

(4)事業の計画・実施業務	【札幌芸術の森】 ▽ 音楽・舞台芸術事業		A B C D

▼ 札幌ジュニアジャズスクール

23年目を迎えた当事業では、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら定期練習を全日程対面で行い、多くの外部演奏会活動に恵まれた。また、国際ユースジャズキャンプ事業の一環としてノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」が来日し、合同演奏会やワークショップを行い、交流を深めた。ジュニアジャズ活動の振興を目的としたジャズの種プロジェクトでは、道内4地域(広尾、ようてい、幕別、砂川)のジャズスクールと連携し、各地で交流ワークショップを行ったほか、砂川市で行った合同合宿や、札幌で開催した合同演奏会「ともだちコンサート」を3年ぶりに開催した。

感染症対策を万全に行った上で、定期練習の全日程を対面で行うことができ、非常に多くの外部演奏会の機会にも恵まれた。また、親交のあったノルウェーのジャズバンドとも3年ぶりに交流し、子どもたちの音楽を通じた国際交流を実現することができた。昨年断念した卒業ライブも実施し、来場者からの総合満足度も92.8%と高い評価を受けることができた。さらに、道内各地域のジャズスクールとも1年を通じ、合同演奏や合宿など、子どもたちが音楽に親しみ交流できる場を提供し、次世代育成事業活動を継続した。

▼ バレエセミナー

開催32回目となった当セミナーは、元東京バレエ団プリンシパルの高岸直樹をはじめ、ヒューストン・バレエプリンシパルの加治屋百合子、振付家の森優貴など国内外の第一線で活躍する日本人ダンサー・指導者を招き、新型コロナウイルス対策を徹底した上で、3年ぶりに5日間のプログラムで開催した。

3年ぶりの開催となり、全国から92名の応募があり、見学も人数制限を設け事前申込としたが300名にのぼり、レベルの高い丁寧な指導を受ける機会を再開させ、受講者・関係者から高い評価を得た。

▼ ユースジャムセッション

ユース世代の交流とジャズセッションにより新たなサウンドを創造する3か年プロジェクトの3年目。8月にアメリカ・バークリー音楽大学教授である芸術監督タイガー大越をはじめとし、プロミュージシャンを講師に、札幌ジュニアジャズスクールや道内外のユース世代のメンバー、ジャズコーラスなど41名が参加し「タイガー大越ユースドリームセッション」を結成、4日間のワークショップの成果を札幌芸術の森野外ステージで披露した。あわせてタイガー大越氏による市内外のジャズスクールや学校の吹奏楽部、ジャズ部へのアウトリーチも実施。また、ジャズコーラスワークショップ「SAPPORO CITY JAZZ VOICES」は8か月間に渡り練習を継続した。令和5年1月には、プロのビッグバンド「札幌ジャズアンビシャス」とユースメンバーとのセッション、ジャズコーラスとの共演を札幌コンサートホールで2日間に渡り開催した。

前年度来日がかなわなかった芸術監督のタイガー大越を迎えることができ、東京から招聘した講師や地元ミュージシャンの協力も含め、充実したワークショップを実施し、成果をノースジャムセッションで披露し、公演に対する満足度は88.4%と、来場者から好評を得ることができた。また、優秀な成績を修めた受講生2人が、次年度夏期にバークリー音楽大学で開催される研修への参加権を獲得するなど、次世代の育成にも大きく貢献することができた。

▼ ビッグバンドプロジェクト

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンで編成した札幌ジャズアンビシャスの定期練習を通年で実施。10月に創成East Jazzに出演したほか、1月には6回目の定期演奏会として、ユースジャムセッションワークショップに参加した中高生とのセッションや、「SAPPORO CITY JAZZ VOICES」のコーラスと共演し、世代を超えたステージを繰り広げた。

ユースジャムセッションのプログラムの一環としてワークショップ講師を務め、定期演奏会ではユースメンバーとの共演をするなどの次世代育成と新たな音楽創造を目指し活動を行った。

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

展覧会企画数:8本

総入館者数:145,398人

(自主事業「札幌美術展 昨日の名残 明日の気配」を含む。)

①PIXARのひみつ展

会期:令和4年4月19日～6月28日 70日間

入場者数:67,908人

長編3Dアニメーション映画『トイ・ストーリー』などを手掛けたピクサー・アニメーション・スタジオと、世界最大の科学センターの一つ、ボストンサイエンスミュージアムが共同開発した展覧会。ピクサー・アニメーションの制作の舞台裏に初めて迫り、アニメーション制作のカギとなる8つの工程を分かり易く解説。“PIXARのひみつ”に触れることができる、体験展示となった。

②銀の匙 Silver Spoon 展

会期:令和4年7月16日～9月11日 58日間

入場者数:23,526人

※札幌市文化芸術鑑賞促進事業により観覧料半額

北海道の大蝦夷農業高校(エゾノー)を舞台に、都会育ちの主人公・八軒勇吾の成長を描いた荒川弘作の漫画「銀の匙 Silver Spoon」。2019年に爽やかな余韻を残して完結した本作が連載開始から10周年を迎えることを記念し、約200点の直筆原稿やカラー原画、初公開の制作資料を紹介する本格的な原画展を開催した。また、南区区政50周年連携企画として、北海道畜産の礎の地、真駒内の歴史を紹介する独自展示を行った。関連事業として、帯広農業高校の協力を得て、同校で製造された乳製品やベーコンなどの肉加工品のほか、十勝・帯広の食材や飲食物を学生が販売するマルシェを開催し好評を博した。

体験型の展示により「キャラクターに命を吹き込み、映像にリアリティを持たせる過程がとてよくわかった」、「数学、幾何学が関係していることがわかりやすく説明されている」などの声が寄せられ、テクノロジーとアートの協働によりPIXARの作品世界がつくられていることを幅広い客層に伝えることができた。

原作ファンはもちろんのこと、原作を読んだことのない人でも作品の世界観を味わえて、原画を間近に観ることの楽しさを体感できる機会となった。主人公たちの学校生活を原画で時系列に振り返り、それらをまとめた青春ムービーで締めくくる構成に、「連載当時のことを思い出して感動した」という声が多数寄せられた。親子での来館が目立ち、子どもにとっては初めての美術館という方が多く、美術館に親しんでもらう機会を提供できた。

③北海道の建築展 2022 受け継がれて進む地域性を見つめて

会期:令和4年9月23日～10月10日 18日間

入場者数:4,370人

※札幌市文化芸術鑑賞促進事業により観覧料半額

日本で唯一国際建築家連合 UIA に加盟する建築家技能集団、JIA 日本建築家協会の北海道支部設立35周年記念事業として、北海道の歴史や地域と深く結びついた建築作品を紹介する展覧会を開催。第一部では、キュレーターの磯達雄氏(建築ジャーナリスト)によって選出された北海道の代表的な建築作品を、時系列に沿って写真パネルや模型により展示した。第二部では、植田暁氏(NPO 法人景観ネットワーク代表理事)が道内の風景と建築をテーマに、北海道支部会員による作品を分類し、解説パネルと模型等を地図上にリンクさせる形式で展示した。また、中庭や美術館前池では、実物大の建築物や建築素材に触れて鑑賞できるインスタレーション作品を展示した。

地域と結びついた建築の代表作品や、北海道で活躍した主要な建築家による作品を鑑賞できることから、北海道全域の建築史を展望する場となった。30～50歳代の主な来館者層のほか、学生や家族連れも見受けられ、地域と建築の結びつきを表現した空間によって、風土に由来する機能美やデザイン性に気づく機会を生み出した。

④北海道陶芸の変遷 vol.2-現代陶芸の今-

会期:令和4年10月22日～11月6日 16日間

入場者数:2,369人

※札幌市文化芸術促進事業により観覧料半額

北海道陶芸協会が主催する「北海道陶芸展」の50周年、「北海道シニア陶芸展」の40周年を記念し、同協会の歩みと北海道陶芸の変遷を展観する展覧会を開催。両公募展の会員・会友の作品と共にその足跡を辿ったほか、全国の陶芸家の作品や、茶の空間を設えた「茶と陶」の関わりを展示し、北海道における陶芸の変遷を展観した。

本州及び北海道内の招待作家による作品展示、「茶と陶」「華道」の展示、両公募展の会員・会友の記念展示という多彩な展示構成が奏功し、陶芸協会の関係者を中心としつつも本州や海外からの来館者も見られた。地域の伝統に根ざす窯の存在に馴染みのない北海道において、本州にルーツを持つ陶の鑑賞と、道内作家を中心とした特定の様式にとらわれない自由な創作を鑑賞できる機会を提供した。

⑤野田弘志-真理のリアリズム

会期:令和4年11月19日～令和5年1月15日 45日間

入場者数:18,688人

※札幌市文化芸術促進事業により観覧料半額

日本のリアリズム絵画を代表する画家の一人、野田弘志(1936-)。本展では、その画業の全容を概観した。学生時代やイラストレーター時代の作品から画壇デビューを果たした頃の静物画群(「黒の時代/金の時代」)、その名が知られる契機となった新聞連載小説『湿原』(加賀乙彦著)の挿絵原画、自身の死生観を示したシリーズ「TOKIJIKU(非時)」「THE」、近年手掛けている肖像画シリーズ「聖なるもの」「崇高なるもの」までを紹介した。

来場者の約半数が50代以上であった。アンケートでは、「あまりの緻密さに衝撃を受けました」「観察眼がすごいと思いました」などの感想があり、リアリズム作品の世界を堪能頂くことができた。また、今まで紹介される機会の少なかった学生時代、イラストレーター時代の作品や『湿原』挿絵原画などを展覧したことによって、野田がリアリズムを追究してきた過程を辿ることができた。札幌独自の企画として展示室内で作家のインタビュー映像を放映し、野田の芸術観を理解する手助けとした。

⑥札幌美術展 昨日の名残 明日の気配

会期:令和5年1月28日～3月12日 38日間

入場者数:4,023人

パンデミック以降、あらためて問題があらわとなった自然と人との関係、そして人と人との結びつきをテーマに、札幌を中心に活躍する8人のアーティストたちの作品を展示。かつてあった「昨日の名残」と、これからを予感させる「明日の気配」の狭間で、おぼろげな輪郭をもつ私たちの現在地を探った。出品作家:上村洋一、北川陽稔、熊谷文秀、佐竹真紀、進藤冬華、中島洋、半谷学、渡辺行夫

鑑賞型の作品のみならず、体験型の作品もあわせて展示することにより、年齢層や単独、グループなど来館形態を問わず楽しんでいただくことができた。難解なイメージをもたれやすい現代アート展を親しみやすい雰囲気にして紹介することができた。

⑦札幌芸術の森美術館コレクション選 サッポロ レトロ & モダン

会期:令和4年7月16日～9月11日 58日間

入場者数:9,443人

札幌の都市化が進んだ昭和30年代、画家たちは当時の景観や人々の生活を作品に残した。本展では、2022年の札幌市市制施行100周年を記念し、昭和20年代から40年代頃までの札幌が描かれた当館収蔵作品を中心に展覧した。また、HBC北海道放送が、昭和30年代の札幌を記録した貴重な映像で当時を振り返った。

当館のコレクションの中から、札幌で活動した画家らの仕事を紹介することができた。また、本展のための調査研究において、原義行作品に描かれた地域を同定することができた。会期中、展覧会の内容や作品について問い合わせがあり、市民の関心を引くテーマ構成でコレクションを公開する事ができた。

⑧札幌芸術の森美術館コレクション選 加藤顕清そこに「人間像」はあるか
会期:令和4年11月19日～令和5年3月12日 83日間
入場者数:14,837人

日本の彫刻界において昭和初期より頭角を現し、1960年代にかけてその発展を支えた加藤顕清。収蔵作品の中から、終生テーマとした人物像や、北海道との関わりをうかがわせる馬の彫刻を中心に15点を展示。アカデミックな彫刻の一典型をつくりあげるとともに、後進の育成にも力を注いだ作家の作品を紹介する展覧会となった。

▼ 野外美術館

7/16から11/3は「札幌市文化芸術鑑賞促進事業」により無料開放となり、7/22からは謎解きイベント「月夜の空想ミュージアム」を併せて実施した。来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア27人による作品解説を行った。野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、「彫刻鑑賞ノート」と、子ども向けには、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができる「シールマップ」を制作販売した。また、自分のスマホで作品解説を聞ける「ポケット学芸員」の提供を行った。

また、札幌市が計画する芸術の森全体の再整備を視野に入れ、11/1に外部委員を含む「札幌芸術の森野外美術館未来会議」を開催し、いただいた意見をまとめ、札幌市への提言とした。

「北海道ゆかりの作家、加藤の作品と資料をまとめた状態で初めて見る事ができた」「大通公園の作品を制作した作家がこの人だとは知らなかった」という声が聞かれ、これまであまり紹介されてこなかった作品や作家に「コレクション選」によって光を当てることの意味があらためて明らかになった。

作品解説ボランティアは、ボランティア研修を受け研鑽を積み、定時解説、臨時解説など来館者の希望に応じた時間や内容で解説を行っている。ボランティア研修を通じて今後も質の高い解説の維持向上を目指す。「札幌芸術の森野外美術館未来会議」では、外部有識者の意見を伺い野外美術館の将来展望について検討を行った。委員の意見も踏まえ、今後の野外美術館のあるべき姿を札幌市と共に考えていきたい。

▼ 教育普及に関する事業

[佐藤忠良記念子どもアトリエ]

彫刻家佐藤忠良作品を中心とした当館所蔵品を展示するとともに、ワークショップの企画・実施をした。

<ねんどで彫刻>

通年

参加者数:505人

<まんがのペンでお絵かき>

会期:7月28日～7月31日、8月4日～8月7日、8月11日～8月14日、8月20日、8月21日 計14日間、28回

参加者数:107人

<たべないであじわう! ?りんご>

会期:12月3日、12月4日 計2日間、2回

参加者数:8人

<ちびっこ油絵>

会期:1月7日～1月9日、1月14日、1月15日、1月21日、1月22日、1月28日、1月29日、2月4日、2月5日、2月11日、2月12日、2月18日、2月19日 計15日間、30回

参加者数:116人

全ワークショップ共に期日前に予約が満席となり、好評を博した。特に「ちびっこ油絵」は本格的な画材を使い気軽に体験ができることから人気の企画である。

子供から大人まで創作、表現の楽しさを体験頂けた。

▽ 工芸・工房事業

▼ 第22期工芸館常設展示事業

クラフト作家への展示機会の提供、市民には良質の作品と出会い購入できる場の提供により、クラフト文化の普及を図るため、工芸館の展示ホールに常設展示スペースを設置している。開設から22期目となる今年度は、夏秋冬の3期ごとに20数人の作家を入れ替えた。作品には作家からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対してより親しみを持てる展示となるよう工夫した。

今年度の出品家は北海道内で活動する62人。

会期: 令和4年7月16日(土)～令和5年3月26日(日)
※11月19日～3月26日の冬期間は土日祝日の開場

会場: 工芸館展示ホール・クラフトギャラリー「ベストポケット」

斡旋販売額: 4,625,450円(前年度実績: 5,003,274円)

前年度に引き続き芸術の森美術館の展覧会関連グッズや出品作家の作品を工芸館内で隣接して販売したことにより、相乗効果で多くの来場者に展示作品をご覧いただけた。

また、夏場はガラス作品、秋から冬にかけては木工や装身具作品の展示に力を入れるなど季節に合わせた作品選定を行うとともに、会期中はSNSを用いてすべての作家の主な作品を日替わりで紹介、展示の様子を幅広くPRしたことにより、多数のアクセスや市内外からの問い合わせが寄せられ、多くの方にクラフトへの興味を持っていただけた。

▼ 工芸・版画講習会事業

毎年、陶芸、テキスタイル、木工、七宝、ガラス、金工、版画の各分野の講習会を毎月企画している。個人を対象に初級から上級までの幅広い内容の個人向け講習会を開催したほか、修学・研修旅行やPTA、企業等のグループ向けの「グループ講習会」、札幌市内の児童会館を対象とした子供向けグループ講習会、クラフト工房来館者が事前の申し込みなしで気軽に作品制作を体験できる「ふらっとクラフト体験」などを実施。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に施した上で、一年を通して開催した。

また前年度に引き続き気軽に制作体験出来るキット「おうちdeクラフト」をクラフト工房窓口やオンラインストアなどで販売し、時間や場所に縛られず、ものづくりを体験出来る機会を創出した。

(令和4年度末時点8種販売中)

会期: 令和4年4月～令和5年3月

会場: クラフト工房(大・中・小制作室)、木工房、織工房、染工房、版画工房

講習会総実施回数: 316回(前年度実績: 135回)

講習会総受講者数: 3,432人(前年度実績: 1,482人)

ものづくり制作体験キット販売個数: 466個(前年度実績: 948個)

単に「つくる」という体験で終わらずに、作ったものを暮らしの中で「つかう」ことに重きを置いた内容で講習会を実施し好評を得た。制作技術の向上を目的とする市民向けには「自由制作教室」を開催したり、外部から講師を招聘して講習会を実施することでリピーターの獲得に繋げることができた。

冬休みの時期には、子どもを中心に当日気軽に参加できる講習会メニューを工夫し、好評を得た。

▼ アウトリーチ事業

①ものづくり制作体験キットを活用した事業展開として、小学校授業の一環である札幌市主催の「学校DEカルチャー」を実施した。

会期：令和4年12月

実施回数：1回(前年度実績:1回)

実施校：札幌市立北都小学校3学年

実施人数:65人(前年度実績:66人)

②市内各施設に職員が出向いて工芸講習会の体験イベントを行った。

会期：令和4年10月～11月

実施回数：12回

参加人数：203人(前年度実績:187人)

工芸分野の普及事業の一環でアウトリーチプログラムに取り組んだ。市内小学校や商業施設などに出向き、親しみやすいプログラムで、芸術の森に足を運ぶ機会が少ない市民にもアピールし制作体験の機会を創出することができた。

▽ その他の文化芸術事業

▼ 芸術の森アートマーケット

札幌芸術の森の園内を会場に、市民アーティストの相互交流や発表の機会の創出を目的に、様々なジャンルの手作りアート作品によるアートマーケットを開催した。

前年度よりも開催日を増やし、多くの出店者により賑わいを創出することができ、全5回で延べ1,323人の入場者に足を運んでいただくことができた。

▽ 各種団体との提携による文化芸術の振興

共催していたライブイベント「OTOTOTABI」を、昨年引き続き、初夏の芸術の森野外ステージで開催した。

また、園内の環境を活用し、マンガやアニメのキャラクターに扮するコスプレ撮影イベント「あめいず村」を共催で開催した。

意欲的な試みを実施したい他団体と提携し、芸術の森の施設や事業ノウハウを提供することで、新しい音楽文化の発信を行うことができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

▼ 総入館者数14,526人
(本館10,104人、記念館4,422人)

【本館】

下記の展覧会を開催した。

●特別展

①「札幌彫刻美術館 40年のあゆみ展」

会期: 令和3年7月13日～令和4年5月31日
230日間(令和4年度52日間)

入場者数: 令和4年度520人

②「生誕100年 藤川叢三展」

会期: 令和4年6月11日～8月31日
70日間

入場者数: 1,859人

③「建築家上遠野徹と本郷新の宮の森のアトリエ」

会期: 令和4年9月10日～12月11日
80日間

入場者数1,761人

④「New Eyes 視線のはなし」

会期: 令和4年12月24日～令和5年4月16日
93日間(令和4年度79日間)

入場者数: 1,265人(令和4年度)

⑤札幌彫刻賞歴代受賞者パネル展

会期: 令和4年9月10日～令和5年4月16日
173日間(令和4年度159日間)

入場者数: 3,135人(令和4年度)

⑥「さっぽろ雪像彫刻展2023」

会期: 令和5年1月27日～29日
3日間

入場者数: 714人

●コレクション展

①「はじめてのほんごうしん」

会期: 令和4年1月28日～5月31日
106日間(令和4年度52日間)

入場者数: 519人(令和4年度)

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型などの常設展示を行った。特に、年譜や作品の解説を充実させるとともに、記念館となった後に設営した壁を撤去し、本郷新が過ごしていた建設当時の姿に戻し、建築的な魅力も積極的に紹介した。

①「本郷新・全部展④ 100の石膏像」

会期: 令和3年4月29日～令和4年5月31日
247日間(令和4年度52日間)

入場者数: 515人(令和4年度)

②「コレクション展2022-23(記念館)」

会期: 令和4年6月11日～令和5年4月16日
257日間(令和4年度243日間)

入場者数: 3,852人(令和4年度)

「藤川叢三展」では、札幌を拠点に活躍した優れた彫刻家を、没後24年を経て改めて広く紹介する機会となった。「建築家上遠野徹と本郷新の宮の森のアトリエ」は、記念館の建築的な特徴と本郷新の最晩年の活動をクローズアップし、新たな魅力を発信した。

「New Eyes 視線のはなし」は、札幌の若い彫刻家や画家らの発表の場の提供となった。いずれも本郷新の業績の顕彰と札幌の彫刻を中心とした美術の振興を図る当館の設置目的に沿ったものであり、多彩な展開により、これまで以上に幅広い層の来館につながることができた。

本郷新が札幌出身であり、全国各地の野外彫刻を数多く手掛けたことや、平和や反戦のメッセージを込めた作品を制作したこと、記念館となっている建物は生前に本人がアトリエ兼ギャラリーとして建てたことなどを積極的に紹介することで、本郷新に対する親近感と偉大さを来館者にこれまで以上に強く伝えることができた。

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞(第4回)

・作品募集

「第4回本郷新記念札幌彫刻賞」

会期: 令和5年3月下旬～令和5年9月3日

4回目の実施において設置場所の変更を余儀なくされたが、各方面と調整し、新たな魅力を生む札幌芸術の森美術館中庭に設置することができるものとした。作品募集の広報も、手段や範囲を拡張して開始した。

▼ 普及事業

●彫美連続講座2022

実施回数:3回

参加者数:166人(会場聴講113人、オンライン聴講53人)

会場:札幌市民交流プラザ(オンラインでも配信)

●造形教室

・夏休み子ども造形教室

参加者数:19人

・冬休み造形教室

参加者数:19人

▼ 学校協力

●聖心女子学院中等部による彫刻清掃ボランティア活動

参加生徒数:8人

●学芸員資格取得希望の大学4年生を対象とした博物館実習(館園実習)の受け入れ

参加学生数:大学4年生4人(延べ17日間計101.5時間)

●三角山小学校3年生の総合的な学習の時間枠での博物館利用

参加児童数:延べ363人

連続講座は7年目を迎え、彫刻についてさまざまな面から知ることができるオンライン同時配信の講座として定着してきている。

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

▼ 促進事業

①サンクスデー

実施回数:2回

入館者数:768人(夏274人、秋494人)

②さっぽろ雪まつり出品

▼ ボランティア活動の受け入れ

ハロー!ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア(協力員)を受け入れ、実際の活動と事後の研修を行った。また、昨年度より図書・情報コーナーを常時開設したことに伴い、「図書・情報コーナーボランティア」と「スクラップブックボランティア」を一本化し、「資料整理ボランティア」と改称した。

▼ 連携事業

財団他施設との連携

・札幌文化芸術交流センター SCARTSと連携して「彫美連続講座」を3回開催した。

サンクスデーでは、展覧会観覧料を無料にするだけでなく、札幌彫刻美術館友の会、札幌アートコミュニケーターズ、近隣店舗などの協力を得てさまざまなプログラムを実施することで、多くの来場者を迎え、当館の魅力を広く知ってもらう機会となった。

また、さっぽろ雪まつり大通3丁目会場にて「さっぽろ雪像彫刻展 from 本郷新記念札幌彫刻美術館」と題し、雪像3基を制作展示し、当館の存在を広く周知することができた。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 【札幌芸術の森】 ・施設の利用状況	A B C D																																																																																										
		R3実績	R4計画	R4実績																																																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3実績</th> <th>R4計画</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">アートホールアリーナ</td> <td>件数(件)</td> <td>199</td> <td>196</td> <td>244</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>17,330</td> <td>12,600</td> <td>15,056</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>73.9</td> <td>66</td> <td>67.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">アートホール練習室</td> <td>件数(件)</td> <td>1,302</td> <td>1,476</td> <td>2,149</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>10,189</td> <td>10,800</td> <td>14,807</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>55</td> <td>50</td> <td>60.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">野外ステージ</td> <td>件数(件)</td> <td>27</td> <td>30</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>8,736</td> <td>11,160</td> <td>9,963</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>67.5</td> <td>35</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">各種研修室</td> <td>件数(件)</td> <td>2,175</td> <td>3,122</td> <td>3,688</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>2,693</td> <td>4,960</td> <td>4,317</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>68.3</td> <td>71</td> <td>70.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">各種窯</td> <td>件数(件)</td> <td>157</td> <td>249</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>157</td> <td>490</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>16.8</td> <td>24</td> <td>29.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">各種アトリエ・ロジ</td> <td>件数(件)</td> <td>125</td> <td>216</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>655</td> <td>1,440</td> <td>1,347</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>15.1</td> <td>19</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>駐車場</td> <td>件数(件)</td> <td>32,575</td> <td>55,191</td> <td>61,659</td> </tr> </tbody> </table>		R3実績	R4計画	R4実績	アートホールアリーナ	件数(件)	199	196	244	人数(人)	17,330	12,600	15,056	稼働率(%)	73.9	66	67.8	アートホール練習室	件数(件)	1,302	1,476	2,149	人数(人)	10,189	10,800	14,807	稼働率(%)	55	50	60.8	野外ステージ	件数(件)	27	30	44	人数(人)	8,736	11,160	9,963	稼働率(%)	67.5	35	24	各種研修室	件数(件)	2,175	3,122	3,688	人数(人)	2,693	4,960	4,317	稼働率(%)	68.3	71	70.9	各種窯	件数(件)	157	249	273	人数(人)	157	490	273	稼働率(%)	16.8	24	29.3	各種アトリエ・ロジ	件数(件)	125	216	215	人数(人)	655	1,440	1,347	稼働率(%)	15.1	19	16	駐車場	件数(件)	32,575	55,191	61,659				
	R3実績	R4計画	R4実績																																																																																									
アートホールアリーナ	件数(件)	199	196	244																																																																																								
	人数(人)	17,330	12,600	15,056																																																																																								
	稼働率(%)	73.9	66	67.8																																																																																								
アートホール練習室	件数(件)	1,302	1,476	2,149																																																																																								
	人数(人)	10,189	10,800	14,807																																																																																								
	稼働率(%)	55	50	60.8																																																																																								
野外ステージ	件数(件)	27	30	44																																																																																								
	人数(人)	8,736	11,160	9,963																																																																																								
	稼働率(%)	67.5	35	24																																																																																								
各種研修室	件数(件)	2,175	3,122	3,688																																																																																								
	人数(人)	2,693	4,960	4,317																																																																																								
	稼働率(%)	68.3	71	70.9																																																																																								
各種窯	件数(件)	157	249	273																																																																																								
	人数(人)	157	490	273																																																																																								
	稼働率(%)	16.8	24	29.3																																																																																								
各種アトリエ・ロジ	件数(件)	125	216	215																																																																																								
	人数(人)	655	1,440	1,347																																																																																								
	稼働率(%)	15.1	19	16																																																																																								
駐車場	件数(件)	32,575	55,191	61,659																																																																																								
	・入場者数 (人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3実績</th> <th>R4計画</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総入園者数</td> <td>271,719</td> <td>500,000</td> <td>410,210</td> </tr> <tr> <td>芸術の森美術館</td> <td>109,390</td> <td>170,000</td> <td>145,398</td> </tr> <tr> <td>芸術の森野外美術館</td> <td>22,221</td> <td>50,000</td> <td>61,451</td> </tr> </tbody> </table>		R3実績	R4計画	R4実績	総入園者数	271,719	500,000	410,210	芸術の森美術館	109,390	170,000	145,398	芸術の森野外美術館	22,221	50,000	61,451																																																																											
	R3実績	R4計画	R4実績																																																																																									
総入園者数	271,719	500,000	410,210																																																																																									
芸術の森美術館	109,390	170,000	145,398																																																																																									
芸術の森野外美術館	22,221	50,000	61,451																																																																																									
	▽ 不承認 0件、取消し 53件、減免787件、還付 21件																																																																																											

新型コロナウイルス感染症対策として利用制限は一部あったが、臨時休園はなく、野外ステージでの大規模イベントなどの施設利用は戻りつつあった。貸出施設の利用促進の一環で、アリーナのフルコンサートピアノを活用した試奏会を開催し新しい客層の開拓や、施設設備のPRに努めた。また、集客イベントが主流である野外ステージは週末利用メインになっており、平日での利用促進として、利用条件を限定し通常より安価に貸し出すプランの実施に向け、札幌市と調整中。

コロナ後の来園促進としての札幌市の文化芸術鑑賞促進事業による屋内美術館開催企画展の観覧料半額・野外美術館の観覧料無料、また、人気プログラムの謎解きイベントの再開が功を奏し、計画には届かなかったものの入園者数も回復傾向であった。

札幌芸術の森では、総入園者数が約41万人と前年度より増加した。要因として、市の文化芸術鑑賞促進事業により企画展の半額補助、野外美術館入場料無料化補助を活かしながら、謎解きイベントの開催等により誘客の工夫を図った点が大きいと考えられる。総入園者数は計画値には届かなかったものの、閑散期の冬のイベントとして「芸森かんじきウォーク」や「SAPPORO ART CAMP2023」を開催するなど、集客に向けた工夫を行っている点は高く評価できる。彫刻美術館では、来館者数が前年度、及び計画値を上回っており、多彩な展覧会事業を開催する等、集客に向けた工夫を行っている点は高く評価できる。以上により、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

▽ 利用促進の取組

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親しんでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを7事業開催した。

- ① てくてくMORIさんぽ
- ② 芸森バースデー2022
- ③ 野外美術館謎解きイベント・月夜の空想ミュージアム
- ④ 有島武郎旧邸朗読会『有島武郎がたどり着いた場所』
- ⑤ ホールでピアノを弾いてみよう！ in 札幌芸術の森
スタインウェイ&ベーゼンドルファーフルコンサート
ピアノ試奏会
- ⑥ あしたのげいもり
- ⑦ 芸森かんじきウォーク
- ⑧ 雪あかりの祭典「SAPPORO ART CAMP 2023」
—YUKIMI HANAMI

感染症対策を徹底し利用促進事業を展開した。恒例の四季イベントに加え、企画制作集団の異言語Lab.とタイアップし野外美術館での謎解きイベントを開催したほか、冬季の誘客促進として、SAPPORO ART CAMPを開催し好評を得た。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

・施設の利用状況

展覧会事業		R3実績	R4計画	R4実績
本館 展示室	展覧会件数	6	4	4
	開館日数	205	282	281
記念館	展覧会件数	2	2	2
	開館日数	214	295	295
本館入館者数		7,502	9,000	10,104
記念館入館者数		4,344	4,000	4,422

その他事業		R3実績	R4計画	R4実績
本館展示 室利用	利用件数	1	0	0
	利用日数	2	0	0
本館 研修室利 用	利用件数	8	0	3
	利用日数	15	0	13
本館 屋外利用	利用件数	2	0	2
	利用日数	12	0	7

▽ 不承認0件、 取消し0件、 減免0件、 還付0件

▽ 利用促進の取組

▼ 「サンクスデー」として年2回無料開館し、ものづくりやオリジナル飲食物販売など楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。

令和3年度は新型コロナウイルスの影響による臨時休館により入館者数が落ち込んだが、令和4年度はコロナ前の水準に戻すことができた。要因として、多彩な特別展の展開が幅広い層の来館につながったことが考えられる。

その他事業では、昨年に引き続き、三角山小学校の総合的学習の時間での博物館利用の機会があった。本館屋外利用は、雪像彫刻展の制作・展示期間や近隣中学校生徒による野外彫刻清掃である。

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	<p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 広報の充実 園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれが携わる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。</p> <p>▼ ホームページによる情報発信の充実 平成28年11月に全面リニューアルのホームページ内容をさらに充実させた。また、季節にあわせトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。 サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。 ・ホームページアクセス数 R4:1,822,301件 (参考)R3:1,588,685件</p> <p>▼ その他SNSによる情報発信の充実 Twitter、FacebookやInstagramでリアルタイムの情報発信を行った。</p> <p>▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供 毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。</p> <p>▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2023年3月16日にホームページに公開した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 通常のホームページ運営に加え、FacebookやTwitterなどのSNSでのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。 ホームページアクセス数:30,973件 (参考)R3:33,245件 Facebookフォロワー数:1,171件 (参考)R3:1,098件 Twitterフォロワー数:4,976件 (参考)R3:4,594件 芸術の森との連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙もりくる)の共有も行っている。</p> <p>▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を2023年2月8日に実施し、結果をホームページに公開した。</p> <p>▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実にを行うよう準備を進めている。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>	<p>InstagramをはじめSNSの更新頻度を高め、イベントだけではなく日常的な園内の情報発信に努めた。また、定期的な広報会議によって園全体での外部の広報媒体の活用や連携したホームページ、SNSの発信を行った。</p> <p>SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。</p>	<p>両施設とも、ホームページの充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。 札幌芸術の森については、ホームページの内容の充実を図るなど、閲覧者に分かりやすい情報発信やSNSを活用したタイムリーな情報発信に努めたほか、マスコミへのニュースリリースによる積極的な情報提供に努めた点は高く評価できる。 札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布、SNS等を利用した広報活動により、地域住民の参加を促している。 以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p>

2 自主事業その他

▽ 自主事業

【札幌芸術の森】

▼ サッポロ・シティ・ジャズ2022

※音楽・舞台芸術事業再掲

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催16回目を迎えた。

冬には、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、札幌文化芸術劇場hitaruを会場に、舞台上にステージと客席を設け、優れた舞台機構を活かし「シアタージャズライブ」を開催した。

なお、海外プロモーションとして予定していた、過去2年にわたるパークジャズライブコンテスト優勝アーティストの海外ジャズフェスティバルへの派遣は中止し、次年度以降に見送った。

▼ 「札幌美術展 昨日の名残 明日の気配」(札幌市補助事業)

※展覧会事業再掲

テーマを設定し、地域の美術家を紹介してきた「札幌美術展」。今回は、パンデミック以降、あらためて問題があらわとなった自然と人との関係、そして人と人との結びつきをテーマに開催した。

▼ 子どもの文化芸術体験事業「ハロー！ミュージアム」

札幌市の小学5年生(特別支援学校小学部含む)を札幌芸術の森もしくは本郷新記念札幌彫刻美術館に招待し、芸術作品の鑑賞やそれを踏まえた表現活動に取り組む機会を子どもたちに提供した。募集時に活動希望した197校のうち、192校が参加した。新型コロナウイルス感染症等による校外学習の延期または中止により、本事業の日程変更等は26校、中止は7校の影響が出た。日程変更における学校の事務手続きの利便性を図るため、令和3年度よりオンライン上で申請ができるよう予約システムを導入しており、活用が定着してきている。さらに、本事業への理解を深めてもらうため、活動にかかわる資料の閲覧やダウンロードができるようにホームページを改修した。

コース別参加校数等

・芸術の森美術館コース:81校88回

・野外美術館コース:87校87回

・子どもアトリエコース:11校11回

・彫美・鑑賞コース:11校18回

・彫美・表現コース:2校5回

総参加校数:192校209回

総参加児童数:13,622人

▼ レストラン事業

センター2階の野菜を中心にしたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供。冬季間は手軽におにぎりや豚汁を楽しめるテイクアウトメニューを提供。また、美術館ではカフェ「ラ・フォルア」を営業した。(利用者:14,963人)

音楽・舞台芸術事業「札幌・シティ・ジャズ2022」と同じ

展覧会事業⑥と同じ

「対話による鑑賞」や、表現活動を通じて、多くの「気づき」を促し、気づいたこと、感じたことを言葉で表現することで「言語力」を育み、個々の捉え方が違うこと、それを認め合う「多様性」の受容も重点としている。

感染予防のため、各コースの定員を減らし、実施回数を増やすなどの対応を行った。彫美・表現コースでは、粘土を用いた創作活動を通じて児童1人1人と向き合うことができた。

道産を中心とした食材にこだわったレストランメニューは、幅広い世代に好評だった。

A	B	C	D
ビュッフェレストランでは札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供しているほか、ミュージアムショップでは、地元作家の作品を展示・販売するなど、地元の魅力をPRする取組を行った。また、オンラインショップも運営し、サービス向上に積極的に努めている。			
その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			

<p>▼ 売店事業 直営で運営しているミュージアムショップでは、オリジナルグッズや地域の作家の作品を販売したほか、展覧会関連グッズや展覧会・季節にちなんだフェアを行い集客に努めた。新型コロナウイルス感染症対策として、来館者同士が距離を保てるよう陳列用棚を減らすなどレイアウトを工夫しながら、展覧会関連商品や作家の紹介を行った。令和4年2月1日よりオンラインショップも開設し、過去の図録を中心にオリジナル商品の販売を始めお客様へのサービスアップを図った。今後、販売商品の充実を進めていく。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 例年同様、令和4年度も各種保守点検、修繕業務などの再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業や作業着等のクリーニングを、近隣の就労支援施設に発注している。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。</p>	<p>展覧会の内容や取扱グッズのリサーチを行い、展覧会に関連したグッズを販売する工夫をする事と地元アーティストの紹介に努めた事で、来館者の楽しさをいっそう増やす事ができた。 今後、オンラインショップ取扱商品を拡大し充実を図りたい。</p> <p>業務の再委託については、可能な限り市内企業に発注することを徹底した。福祉施設等の利用についても積極的に取り組むことができた。</p>
---	---

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

【札幌芸術の森】

実施方法	令和4年4月～令和5年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。
結果概要	回答4,621件 (施設利用者アンケート463件、事業アンケート4,158件) 施設に対する総合的な満足度は93.6%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、例年とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度についても、96.6%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度と同様の数値を維持できた。 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

実施方法	無記名の記入方式(通年)
結果概要	回答1,070件 来館者の接遇に対する総合的な満足度は約99.2%('大変良い'、'まあ良い'、'普通'の合計)、施設についての満足度は約95.4%('とても満足'、'まあ満足'、'普通'の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】駐車場の広さが足りない 【対応】イベント時の近隣駐車スペースの確保と十分な案内を試みている。 【要望】人がいないこともあり一階事務室での話し声がとても響いていました。 【対応】事務室内での打ち合わせなどで大きな声にならないよう注意した。

札幌市の要求水準である5,000件には到達しなかったものの、90%は超えている。新型コロナウイルス感染症による入園者数減は回復傾向にある。WEBアンケートの周知を図り(R4年度はアンケートでの回答率25%)、要求水準達成を目指す。職員の接遇及び施設については高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。

昨年よりも多くの回答数を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。

A	B	C	D

両施設とも、「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」は、本市の要求水準である80%を超えている。

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	R4年度計画	R4年度決算	差(決算-計画)
収入	842,523	900,816	58,293
指定管理業務収入	783,193	841,068	57,875
指定管理費	670,246	696,654	26,408
利用料金	47,629	45,209	▲ 2,420
その他	65,318	99,205	33,887
自主事業収入	59,330	59,748	418
支出	873,587	961,839	88,252
指定管理業務支出	799,940	889,042	89,102
自主事業支出	73,647	72,797	▲ 850
収入-支出	▲ 31,064	▲ 61,023	▲ 29,959
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 31,064	▲ 61,023	▲ 29,959

▽ 説明

▼ 指定管理費について、今期は令和4年1月～令和4年10月の施設キャンセル、令和4年4月～令和5年3月までの光熱費高騰分の補填を受けたことにより、増収となった。

▼ 利用料金収入は主に野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料である。野外美術館観覧料収益については、札幌市文化芸術鑑賞促進事業により、7月16日以降の観覧料が無料となっており、それに伴い減収となったが、その分受取負担金(その他に分類)として札幌市による補填がされている。野外美術館観覧料収益以外の利用料金収益については、おおむねコロナによる減収は解消された。

▼ その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等。札幌市文化芸術鑑賞促進事業の補助として3,824千円の収入があったため、増収となった。

▼ 指定管理業務支出について、当年度中は施設老朽化に伴う計画外の修繕や光熱費の高騰により費用を要したことなどから、支出増となった。

▼ 自主事業支出は、ほぼすべての事業でマイナス決算となった。

収入において、新型コロナウイルス感染症の影響による減収はおおむね解消され、札幌市文化芸術鑑賞促進事業や謎解きイベントの効果から来園者数増となり、前年度より増収となった。支出においては、施設老朽化に伴う計画外の修繕や、最低賃金上昇に伴う委託費の増額等を受け、支出は増加した。こうしたことから、公的補助金や民間助成金の獲得を行い、収支の回復に務めた。

A	B	C	D
全体として計画比約30,000千円の赤字となっているものの、施設老朽化に伴う修繕や光熱費の高騰など、特殊要因による支出増も多く見られる。事業実施にあたっては公的補助金や民間助成金の獲得に努めている。安定的な施設運営を行っていくために、今後も、緻密な事業計画の作成や経費削減に取り組んでみたい。			

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持		適 不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応	個人情報流出後、財団全部署でメールの送信状況について状況把握のため調査を行い、流出防止のためのマニュアルの作成、研修の実施により再発防止に努めている。	適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【札幌芸術の森】</p> <p>令和4年度は、感染症対策として利用制限は一部あったが、臨時休園はなく、野外ステージでの大規模イベントなど施設利用は戻りつつあり、また、主催事業もバレエセミナーなど対面形式の実施スタイルを取り戻し全国から約100人が参加した。また、体験型展示を通し、アートとテクノロジーが織りなす映像芸術の可能性を伝えた「PIXAR展」や野外美術館を会場とした謎解きイベントに多くの方にご参加いただいたことに加えて、札幌市文化芸術鑑賞促進事業により企画展の入場料が半額補助に、野外美術館の入場料は無料期間があったため、コロナ禍以前の水準と同程度の約41万人まで回復した。園外においても、16回目のサッポロ・シティ・ジャズが、3年ぶりとなる「パークジャズライブ」を市内10会場で開催し、全国から集まった約200組のバンドが演奏を繰り広げた他、冬には市民交流プラザを会場に「シアタージャズライブ」やジャズの普及を図るプログラムを多数開催した。また、札幌芸術の森の野外美術館は、開館から35年以上経過し、作品のみならず周辺環境の劣化、損壊が進行していることから、野外美術館未来会議を立ち上げ、有識者からの意見を取りまとめ札幌市に提言を行うなど、積極的な管理運営に努めた。</p>	<p>第5期指定管理の運営に係る基本方針に基づき、事業を実施する。</p> <p>道内外から大勢の観光客が訪れるよう、また、市民の日常的な憩い空間として利用できる公園としての魅力を向上に取り組み、ノウハウ、経験及びこれまでのデータを活用しつつ札幌市と連携して実施する。</p> <p>広大な敷地に点在するさまざまな施設、また公園施設としての外構も老朽化や荒廃が進んでいるため、これらについても札幌市と協議しながら安全で快適な空間の確保に努める。野外美術館の作品改修が令和5年より2か年に渡り計画されているほか、順次実施が予定されている園内施設の大規模改修に対し、利用状況の共有など施設管理者として積極的に協力をしていく。</p> <p>音楽、舞台芸術、美術、工芸の各分野の普及振興のために、札幌市の文化芸術を支える施設として、高い水準の芸術鑑賞の機会をつくり出す事業、次世代の担い手の育成や市民活動及び交流が活発に行われる場の提供事業などを引き続き行う。</p> <p>事業の推進に当たっては、当財団が管理運営している他施設をはじめ、民間組織や各種団体との連携を図ることで、芸術の森だけでは成し得ない企画の立案や施設の利用促進に努める。また市内中心部の施設を活用することも図り、より気軽に市民が参加できるアウトリーチ型の事業も多く企画していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策については、感染状況に応じ、安全性を確保しながら利用者のニーズを損なわない柔軟な施設運営に努める。</p>

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

前年度、長期にわたる休館で入場者数が大きく減少したが、今年度は、本館の入館者数が10,000人を超え、以前の水準に戻すことができた。

展覧会事業では、彫刻家藤川叢三の展覧会、本郷新記念札幌彫刻美術館の「記念館」を設計した上遠野徹を紹介する展覧会、若手作家の育成を願った本郷新の想いを受け2012年より開催しているシリーズ展「New Eyes」展と、多様な展示を行ったことで、幅広い層の入館者を獲得することができた。

また、各事業では、座談会やアーティストトーク、ギャラリートナーなどをタイミングよく開催し、展覧会にアクセントをつけるよう試みた。

コレクション展では、本郷新の没後40年、美術館閉館40年を経て、改めて、今、戦後日本を代表する屈指の社会派スカルプチャーの偉業と足跡を数々の代表作とそれらに付け加えた鑑賞補助掲示物を通じて解き明かすことを試みた。

その他の事業では、「ハロー・ミュージアム」「彫美連続講座」「造形教室」などで内容の充実につとめるとともに「サンクスデー」では幅広い層に美術館に来てもらうことができた。

また、今年度初めて、「第73回さっぽろ雪まつり」に当館選定による雪像作品を制作・出品したことで、多くの人々に美術館の存在をPRすることができた。

施設の維持管理については、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。

本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を活かした魅力ある事業展開に引き続き努めていく。

第Ⅴ期指定管理の方針に基づき、以下の取り組みを行う。

- ・本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開を行い、その現代的な価値を引き出しながら、多角的に顕彰していく。
- ・札幌、北海道ゆかりの彫刻家や、彫刻を核とする立体表現の多彩な動向にも視点を広げ、彫刻芸術を中心とした芸術文化の振興を図る。
- ・子どもや若年層への普及、鑑賞・学習機会の創出など、幅広く市民の美術館利用や芸術活動への参加を促し、「次世代の芸術家の育成」という本郷新の遺志の実現を図る。
- ・市民に開かれた施設運営を行い、近隣の学校や文化・商業施設、関係団体などとの連携を推進し、広く市民に愛される美術館を目指す。

【所管局の評価】

総合評価	改善指導・指示事項
<p>両施設とも、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。</p> <p>芸術の森では、多彩な展覧会や、謎解きなどの野外美術館を活用したイベントを実施するなど、創意工夫をしながら事業実施に努めた点は高く評価できる。</p> <p>彫刻美術館では、主催展覧会の他、多彩な普及事業を開催する等により来館者を伸ばしており、多くの市民に文化芸術に触れる機会を提供したことについて高く評価できる。</p> <p>芸術の森の収支状況については、光熱費の高騰等により全体としてマイナス決算であり、厳しい経営状況が続いている。民間助成金の獲得等に努めるとともに、安定的な施設運営を行っていくために事業内容の見直しや効率化を図り、経費削減に一層取り組んでいく必要がある。</p> <p>芸術の森においては職員の作業中の転落事故やメール送信時の個人情報流出などの事案が発生しているが、即座に再発防止に向けた対応をしている。引き続き職員の安全教育、コンプライアンス教育を強化していく必要がある。</p>	<p>芸術の森、彫刻美術館ともに、工夫を凝らした事業を数多く実施しており、今後も業務計画書に沿って魅力ある多彩な事業の実施に努めていただきたい。</p> <p>経営面においては、民間助成金等の財源確保や経費削減、及び事業収入の向上に引き続き努めていただきたい。</p> <p>また、経理関係事務の再点検、適切な業務の記録と保存、管理監督者の役割及び意識の徹底、適切なサイクルでの配置転換、職員の安全衛生管理、コンプライアンス研修の実施、財団所管の実行委員会に対する内部監査の実施、これらの取組状況の報告については、引き続き取り組むこと。</p>